

20世紀の始まり（1901～1915）、その3

《近代化を支えた多摩川の砂利・・・玉電開通など》

1907年（明治40）、「玉川電気鉄道」（通称玉電：現在の東急田園都市線）が渋谷から玉川駅まで開通します。この鉄道は、多摩川の砂利を渋谷に運ぶのが、主目的でした。旅客用電車の後ろに砂利運搬貨車を繋いで運行され、別名ジャリ電とも言われました。

そして、川沿いに料亭や旅館が立ち並び、また、観光鮎漁や鵜飼など、川遊びの店も軒を連ね始め、二子玉川は行楽地へと変化していきました。玉川遊園地やプール、テニスコートなどが建設されていきました。

現在、玉川駅は、二子玉川駅と名を変え、西側に玉川高島屋ショッピングセンター、東側に二子玉川ライズを擁し、高級住宅地でありながら、オンラインショッピングで起業した楽天が本社を置くおしゃれな街区を形成しています。

珍しく、駅は、多摩川の上にプラットホームがあり、また多摩川の堤防は、旧歓楽街と新市街地を繋ぐために陸閘が設けられ、洪水時にはゲートで閉鎖される構造となっています。

一方、1910年（明治43）には、国分寺市と府中市間に「東京砂利鉄道」が開業します。この路線は、1920年（大正9）に鉄道省が買収し、採取した砂利を神田－上野間の高架鉄道建設に使用しています。平行してJR武蔵野線が建設されたことから廃止されています。

また、同年1910年（明治43）に「多摩鉄道」が砂利運搬目的で設立され、9年後にはJR武蔵境駅と是政駅間が開通。これが、現在の西武多摩線です。是政駅の近くの砂利採取跡地は、多摩川競艇場になっています。